心臓カテーテル検査のクリティカルパス導入における看護婦のアンケート調査

石倉有由美・清永あゆみ・矢野美幸・川端悦子

滋賀県立成人病センター　循環器内科　東 4 病棟　看護婦

【目的】当センターでは、年間約 2000 例の患者が心臓カテーテル検査を受けている。オリエンテーションの簡略化・統一した看護ケア・看護計画の充実のため、看護計画を組み込んだ看護婦用のクリティカルパス(以下パスと略す)と患者用パスを導入した。導入後 10 ヶ月が経過した時点で、看護婦にアンケート調査を行いパスの有用性を検討した。

【方法】当病棟の看護スタッフ 21 名(当病棟での勤務が 1 年未満の 8 名を含む)にアンケート調査を行った。

【結果】

オリエンテーションの時間短縮がはかれたか？	YES　80%、	NO　20%
看護ケアの手順を再確認する上でパスを利用しているか？	YES 100%、	NO　0%
パスに組み込んだ看護計画を役立てているか？	YES　71%、	NO　29%
パスの看護計画を退院サマリーに生かせているか？	YES　57%、	NO　43%
患者からパスの内容について質問を受けたか？	YES　61%、	NO　39%

患者からの質問内容として必要物品・検査の順番・検査の日時・心臓カテーテル検査後の安静度・内服に関しての順に多かった。字が小さいというクレームもあった。

【結論および考察】1）患者用パスを使用することによりオリエンテーションの時間短縮がはかれたと答えた看護婦が多かった。その理由として、パスにより心臓カテーテル検査前後の流れを患者に説明するのが容易となり、患者の理解が得やすく不安の軽減につながったためと考えられた。ただし質問の多かった内容をより分かりやすく改善することや、患者の満足度を調査した上でパスに反映させることが必要である。

2）看護婦用パスに関しては、看護婦全員が看護ケアの手順の再確認(動脈シースのサイズによる安静度の違いなど)を必要とする時に利用していた。紙面上で情報を確認し共有できるパスは、スタッフ間での看護のばらつきをなくし、ケアを統一させることに役立っている。

3）パスに組み込んだ看護計画を利用できている看護婦は比較的多かったが、退院サマリーにまで活用できている人はやや少なかった。パスを導入してから 10 ヶ月と期間が短く、またスタッフの異動も重なったためパスの使い方に慣れていないことが推測された。今後パスの使用を継続し浸透させることによって、看護計画の展開や退院サマリーの作成に充分に活用することができると期待される。